

## 地方議員のポリシーマインドと“自分だったら”

専門政治コース 武田 紋奈

地方選挙においていつも各候補者が掲げる政策に疑問を持っていたので、今回の専門コースの講義は私にとって大変興味深いものだった。

特に疑問に思っていたのは国が取り組むような景気や雇用対策から、高齢者や子育て世帯に優しい街づくり・安心安全などという何の具体性も無い大雑把な政策まで、どのように実現するかという方法を示している候補者はほとんどおらず、この候補者は何をやる為に議員になるのかと思う事が多くあるからだ。

実際、以前ある候補者が立候補する際に、「若い人に響く政策にしたいが何が良いか？」と聞かれた事があり、“自分の問題意識では無く有権者受けで政策を決めるのか？しかも選挙まで僅かな期間しかないこの時期に有権者受けで決めた政策を、自分のものとして落とし込み実施に導く準備が出来るのか？”等々、次から次へと不信感と疑問が湧き出てきて、窪田氏が仰っていた“自分だったらどうするか？”という考えが浮かんだ事を思い出した。

### 【自分だったらどうするか】

まず自分だったら“問題意識”と“絶対に良い方向に導くという強い意志”がなければ、議員に立候補しようなどとは思わないが、もし地方議員になる事が優先で、何に取り組むかは当選してから検討するという事であれば、有権者の声を直接聞くという選択をしようと思う。その候補者は「有権者は何も言って来ない」とも言っていたが、【自分だったら】有権者に「議員になって下さい」と頼まれているわけでも無いのに、有権者側から自分がすべき仕事を提供してもらおうなどと言うのは厚かましい気がするので、自分の方から人が集まる場に出向いて、ご意見を伺うという行動をとるはずだと思った。

それを伝えると何故か私が有権者の声を聞く事になり、実際に公園に出かけて小さなお子さんを遊ばせている若い親御さんに片っ端から声を掛け、多くの不満を聞き沢山の問題に気づく事が出来た。

具体的には病児保育の問題や片親での子育ての負担など、直ぐにでも解決すべき課題が山積していた。しかし自分にはその課題に取り組むには子育ての現状に対して全く知識が無い事も実感し、投票する際にも個別の小さな問題を解決しようという候補者よりも、広い視点で全体を向上させてくれるような候補に投票していた事に気付かされた。

この候補者に出会った事で身近な困っている人に気付く力を持つ事の大切さに気付く、今回の講義ではその問題意識を持って全体の幸福にいかに関与する政策をつくれるか、さらに実現させる為にはどのような動きをしていく必要があるのかを考えられる力が必要だと痛感した。

さらには自分が候補者でなくても必要な視点であった事を改めて学んだ事で、今後も【自分だったら】という視点を忘れずに議員を選ぶ事が大切だと強く思った講座であった。